



世界の庄内／ プールの記憶の巡回展

1. いるかの絵本



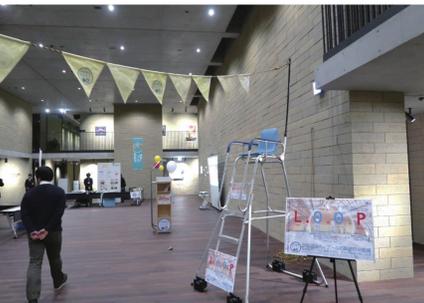
2. 記憶をつなぐ動画



3. 1980年代の写真



4. プールの備品を使った本棚、
インсталレーション



SHONAI L.O.O.P /ART & ARCHITECTURE PROJECT

2020年4月に、スポーツ、健康、緑、芸術などをテーマとして人が集まる新しいスポーツ施設に生まれ変わる、グリーンスポーツセンター。

その交流拠点づくりに向け、基本計画のコンセプトである“LOOP=回遊性、循環、環状”をテーマにしなが、建築×アートによる「SHONAI L.O.O.P」プロジェクトを実践します。

2017年度は、「世界の庄内／プールの記憶の巡回展」を市内4箇所で開催し、多くの市民に愛された庄内温水プールの記憶を蘇らせ、2020年のリニューアルオープンに向けて記憶を紡いでいきます。

SHONAI L.O.O.P /ART & ARCHITECTURE PROJECT

千里文化センター「コラボ」
2018.01.27.Sat~1.30.Tue.
開館時間 午前9時~午後9時

豊中市役所第二庁舎ロビー
2018.01.22.Mon~1.24.Wed.
開庁時間 午前9時~午後5時15分

豊中市立文化芸術センター
2018.01.12.Fri. START
世界のしよない音楽祭にて、旧プールを題材にしたアート×絵本制作などを展示。文・市民参加のワークショップを実施。その後公民館や市役所を巡回展示していきます。 展示時間 午後3時~午後9時

豊中市立庄内公民館
2018.1.13.Sat.~1.21.Sun.
展示時間 午前9時~午後9時

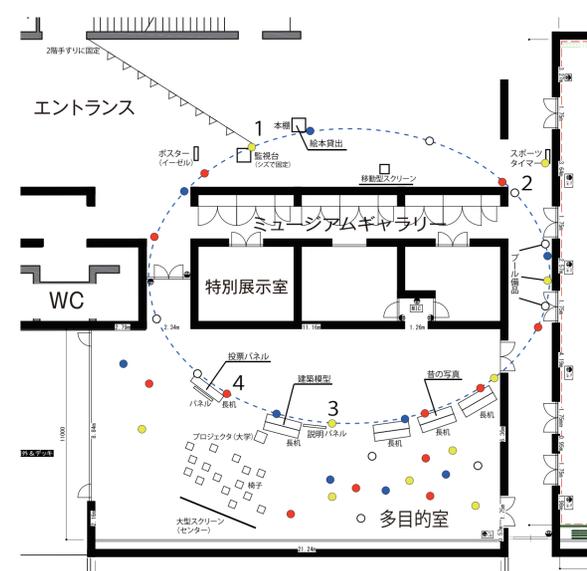
世界の庄内／プールの記憶の巡回展
庄内温水プールに留められた、庄内の記憶が巡り出す
豊中市立庄内温水プール跡地再整備 大阪大学工学部 建築・都市人間工学研究室×豊中市 連携プロジェクト2017
巡回展及びプロジェクトの詳細問い合わせ先 大阪大学工学部 建築・都市人間工学研究室 shonailoop@archtemp.okazaki-u.ac.jp

L.O.O.P 1. 豊中市立文化芸術センター
2018.1.12

L.O.O.P 2. 豊中市立庄内公民館
2018.1.13~21

L.O.O.P 3. 豊中市役所第二庁舎
2018.1.22~24

L.O.O.P 4. 千里文化センター
2018.1.27~30



(19) 2018年(平成30年)1月18日 木曜日 大阪日日新

おおいさか

豊中市 庄内プール記憶たどる 阪大生ら企画、巡回展

2011年に閉館し、18年度中に解体される豊中市立庄内温水プール(大島町3丁目)の在りし日の姿を展示した「世界の庄内／プールの記憶の巡回展」が三和町3丁目の庄内公民館で開かれてい。豊中市と大阪大工

学部の建築・都市人間工学研究室の学生らが企画。同展は30日まで同市北部の豊中市役所第二庁舎と千里文化センターでも開催され、同研究室の伊丹康二助教は「多くの人にプールの記憶のことを知ってもらいたい」と話す。

同プールは、全国で初めて下水処理による汚泥焼却熱を利用した温水プールとして1981年に開館。三つのかまぼこ型の屋根と原色で装飾された屋内在り、市民の健康づくりの場として活用された。最盛期には年間14万人が利用したが、施設の耐震性の問題で7年前に閉館。今後、2019年度をめどに隣接するグリーンスポーツセンターと一体で総合的スポーツ拠点に整備される。

同プールがある庄内地域は人口減少傾向があり、同市では地域活性化の起爆剤として、学生と地域住民によるプロジェクト「SHONAI L.O.O.P」を発足。プールの跡地利用についての意見交換を行った。今回の展示は、プロジェクトの一環として実施した。

展示に合わせ、休館中に色あせてしまったプール底のイルカのイラストを学生らがペンキで塗り直して復元。そのイルカをモチーフにした絵本を学生の西丸美奈子さんの20が制作し、会場で展示した。

「プールからよみがえったイルカが飛び回っているイメージで本を書いた。地域も同じように活性化してほしい」と西丸さんは話している。イルカが地域の未来を夢見る物語を読み進めながら、会場を見て回る仕組みだ。

そのほか、実際に使用されたハンコや監視台のほかに、プールの管理者が保管していた100枚を超える写真も展示し、かつての記憶を伝えていく。

伊丹助教は「楽しかった記憶を呼び起こし、次につなげてほしい」と、地域活性化に思いを託す。

(光長いづみ)

展示は、庄内公民館が21日まで(午前9時~午後9時)、豊中市役所第二庁舎ロビーは22~24日(午前9時~午後5時15分、22日は午前11時から)、千里文化センター・コラボは27~30日(午前9時~午後9時)。

見交換を行った。今回の展示は、プロジェクトの一環として実施した。展示に合わせ、休館中に色あせてしまったプール底のイルカのイラストを学生らがペンキで塗り直して復元。そのイルカをモチーフにした絵本を学生の西丸美奈子さんの20が制作し、会場で展示した。「プールからよみがえったイルカが飛び回っているイメージで本を書いた。地域も同じように活性化してほしい」と西丸さんは話している。イルカが地域の未来を夢見る物語を読み進めながら、会場を見て回る仕組みだ。そのほか、実際に使用されたハンコや監視台のほかに、プールの管理者が保管していた100枚を超える写真も展示し、かつての記憶を伝えていく。

